



こめづく 米作りで、「代かき」の代とは、どんな意味なの

たう まえ た たがや 田植えの前に、田を耕すこと

のうか ひと 農家の人たちは、お米を作るために、たくさんのさぎょうをします。たう まえ 田植えの前になると、いろいろなじゅんびがあります。たう 田植えのために水が入られた水田を、耕すのも重要な仕事です。トラクターに乗って、おと た 音を立てながら、た たがや 田を耕すのです。これを「代かき」といいます。代かきというのは、た みず い 田に水を入れて土を耕し、つち たがや かた つち 固まった土をやわらかくして、なえが根づきやすいようにすることをいいます。のうか ひと 農家の人は、代かきが終わった田のつち お 土が落ちつくのを待って、たう 田植えをします。

つまり、代かきの「代」とは、た でんち い み 田とか田地の意味です。

こめづく 米作りのスケジュール

こめ つく 米を作るためには、さいしょ た はじ 最初に田おこしから始めます。トラクターでた つち なんと お 田の土を何度もほり起こし、やわらかい土にします。

がつ たね 4月ごろ、種もみ(お米の種)を選び、なえ箱に種をまきます。がつ お 5月の終わりごろ、たに みず い 水を入れ、た たがや 田を耕します。これを代かきといいますが、た みず ふせ い み 田の水もれを防ぐ意味もあります。そして、いっせいにたう はじ 田植えが始まります。なえ箱を田植え機につみ、植えつけします。たう えのあと、みず みまわ 水の見回りをし、みず 水もれをチェックします。

その後、あつ ひりょう 肥料をまいて、いねの せいちょう たす 成長を助けます。がつ なか 9月の中ごろ、いねの ほ がたれ、がつ お 9月の終わりごろ、いねが いろ みの 実り、かり い はじ かり入れが始まります。かり いれ た 米は、かんそう から、しゅっか 出荷します。(監修・青木 国夫)

